



江別ユネスコ協会事務局だより 2017年9月11日号

◇江別ユネスコ協会事務局/067-0074江別市高砂町 24-6 教育委員会生涯学習課内(担当:大友☎381-1069)

2017・江別「世界市民の集い」にご参加ください

江別ユネスコ協会が加盟している江別市国際交流推進協議会が毎年開催している「みんなおいでよ！江別“世界市民”の集い」が、今年も10月7日（土）12：30～16：00に、野幌公民館の全館を使って開催されます。本年は、江別市とオレゴン州グレシャム市との「姉妹都市提携40周年」を記念して、「グレシャム市民と交流しましょう！」をテーマに、多彩なパフォーマンス、展示会、日本伝統文化の体験会、世界料理試食会、ハロウィン・コーナーなどが企画され、市内の国際交流グループや滞在外国人グループ、留学生など多数の皆さんが参加・交流します。

当協会の会員の皆様も、ご家族・ご友人などお誘いあわせ、この交流行事に多数ご参加頂いて、国際親善・国際理解の輪を広げて頂きたいと思っております。

「百舌鳥・古市古墳群」を世界遺産候補に文化審議会が推薦！

文部科学大臣と文化庁長官の諮問機関である文化審議会は、2019年の世界文化遺産の登録をめざす候補として、「百舌鳥（もず）・古市（ふるいち）古墳群」（大阪府）を推薦することを、本年7月31日に決定しました。日本政府は9月末までにユネスコへ暫定版の推薦書を提出し、閣議了解を経て、来年2月までに正式な推薦書を提出することになります。

この古墳群は4世紀後半～5世紀後半に築造されたもので、構成資産は45件（49基）が対象とされ、国内最大の前方後円墳「仁徳陵古墳」などを含んでいます。文化審議会は、この古墳群がヤマト王権の影響下で広まった文化の象徴であることや、密集した地域に様々なかたちや大きさの古墳があることなどの価値を認め、推薦を決めました。2010年に既にユネスコの暫定リストに記載されていますが、今般ようやく日本政府の正式推薦を獲得したことになります。

「長崎と天草の潜伏キリシタン関連資産」ふたたび現地調査！

日本政府は2月1日に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」（長崎県、熊本県）を世界遺産に登録するため正式な推薦書をユネスコに提出したため、2018年の世界遺産委員会で登録が審議される見込みです。この遺産は2015年に「長崎の教会群とキリスト教関連資産」の名称で推薦し、ユネスコの諮問機関イコモス（国際記念物遺跡会議）からルネ・ルイス・マタ氏（フィリピン）が現地調査に来た結果、登録不可になりそうになったため2016年2月に推薦を取り下げた案件です。本年、日本政府は再推薦に踏み切ったため、9月4日から11日間、リチャード・マッケイ氏（オーストラリア）が改めて現地調査をすることになりました。

今回の調査に基づくイコモスからの勧告が、2018年の世界遺産委員会の審議に耐えられなければ、この遺産は昨年「推薦取下げ」をしたばかりなので、永久に再推薦できない遺産になる規定があるため、地元の関係者や政府の担当部局では神経を集中して、現地調査に対応しています。

2017年度の「北海道ユネスコ大会 in 釧路」にご参加ください

すでにお知らせした通り、本年の全道大会は、10月14日（土）と15日（日）の両日、釧路ユネスコ協会の主管により、厚岸町愛冠6番地の道立青少年活動施設「ネイパル厚岸」で開催されます。交通が不便な地域のようなのですが、厚岸漁協のご協力もあり、北海道らしい大会になりそうです。第1次参加申込みは9月11日（月）締切りですが、当日の参加申込みも可能ですので、希望者は会場の受付に当日申し出てください。「開催要項」が必要な方は、当協会事務局へご連絡ください。

